

国語論集20

令和5年(2023)3月

国
語
論
集

20

明治初期の初等公教育と漢学—授業表を手がかりにした考察—	水上雅晴(1)
柳田国男監修高等学校国語教科書における単元「古文入門」をめぐって	佐野比呂己・佐野理美(16)
説話文学の魅力を学び、楽しむ授業	菅原利晃(31)
—『今昔物語集』巻第二十七「近江国安義橋の鬼、人を嘸ふ語 第十三」の授業をもとに—	
国語科の授業づくりの「前」に —国語科の授業では何を教えるのか—	市川恵幸(42)
「学習者の気づき」を大切に古典の世界に接近する授業づくり	金田昭孝(49)
—『仁和寺にある法師』(光村図書・中学二年)の実践を中心に—	
柳田国男監修の高校国語教科書における『風土記』	関谷由一(59)
教科書掲載短歌の考察 その2 —令和二年度小学校国語教科書を中心に—	大村勅夫(71)
文学模擬裁判で「なりきる」方法とプロセスの実践的研究	札埜和男(94)
三つの「対話」を指導過程に組み込み、考えの形成を促す「読むこと」の指導	宮内征人(106)
— 詩評を読み詩評を書く活動を通して —	
横光利一『蠅』における《本質問題》の論究	荒木美智雄(118)
— 「人間の時間」と「蠅の時間」との位相における〈言語以前〉の世界 —	
『カムイ・ユーカーラ』「ミソサザイの神が語った話」教材化	小長谷祥治(126)
～コロナ禍における道しるべとしての活用～	
小学校中学年文学的文章の授業づくり「ごんぎつね」の実践を通して	長屋樹廣(132)
—ストーリー性のある単元デザインを目指して—	
実践報告・「古典探究」における学年末の授業づくり	青山昌弘(142)
——和歌とJ-POPを教材として言葉の本質を実感させる(高校二年)——	
口語訳指導における古典の「読解の方略」を考える	田山地範幸(153)
古文が好きになる『枕草子』の授業 —「点」を繋いで「線」で読む—	山崎圭志(162)
「新聞」を使って「書く」活動の覚え書き ～新科目「現代の国語」の充実のために～	太田幸夫(175)
言葉を手掛かりに論理的に思考し、言葉に立ち止まって読むことができる学習活動の工夫	竹内彩乃(186)
山田秀三「アイヌ語地名を歩く」の教材化(5) —指導資料作成の試み—	谷口守(191)
三島由紀夫「鴉」におけるテキスト異同をめぐって	久保大斗(204)
自力読みのための基礎的な力を育む	長屋樹廣(217)
—小学校三年生における一年間の系統指導の一考察—	
拙論「横光利一『蠅』論 ——制度としての同化読みと人間中心主義・批判」の前提	田口耕平(226)
——「初読の感想」と「疑問出し」による授業実践	
小林文庫本『百因縁集』本文小考	竹ヶ原康弘(231)
ICTを活用した要約に接続する基礎演習の実践について	長澤元子(237)
—山崎正和『水の東西』と内山節『自然と人間の関係を通して考える』を中心に—	
【兼 報】	(245)

令
和
五
年
(
二
〇
二
三
)
三
月

北海道教育大学釧路校 国語科教育研究室